

1. 研究の背景

妊娠中あるいは産後1年以内に癌が発覚した病態を妊娠期癌という。海外の報告では、**妊娠期癌の頻度は1000妊娠に1人**と言われている。妊娠期にみつかると悪性腫瘍のうち、頻度の多い疾患として、乳癌、子宮頸癌、悪性リンパ腫、甲状腺癌、悪性黒色腫、肉腫、絨毛癌などがあげられる。

かつては妊娠中のがん治療はその腫瘍学および周産期学的安全性が不十分なことから、両立は難しく、人工中絶を選択する場合も多くあった。しかしながら、近年は、妊娠週数を配慮することで**妊娠中の癌薬物療法や癌の手術が行え、その後も安全に分娩ができることが報告されている**。また、在胎時に癌薬物療法を受けた児の発育に関する安全性を報告するデータについても海外では蓄積されてきている。

本邦においては癌診療ガイドラインに若干の記載はあるものの、患者に向けた十分な情報提供はなされない。また妊婦に対し薬物を投与すること自体がタブー視されており、ましてや癌治療と妊娠の両立はできないという先入観が医療者の間に根深く存在している。結果、**妊娠期癌のマネジメントに精通しない医療者が妊娠期癌患者の治療方針を決め、不用意な中絶が勧められているのが現状**である。さらには、**患者向けの情報提供に関しては全く整備されていない**。

一方で、米国を例にあげると、National Cancer Institutionをはじめ、多くのがん専門病院、大学病院のホームページ上で妊娠期癌に関する情報提供、受け入れ先を掲示している。また、Cancer Netなど、患者向けの情報提供サイトにも妊娠期癌についての情報が掲載されており、患者が容易に情報を入手でき、専門の医療機関を受診できるような仕組みが構築されている。

2. 研究の目的

日本において未だ未整備な妊娠期癌診療に関する課題を抽出し、今後の診療体制および相談支援体制の確立に向けた方向性を定めることを目標とした。

3. 研究成果

3-1. 妊娠期癌診療に関する課題の抽出

本研究では、国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院、成育医療研究センターらの外科医、腫瘍内科医、産科医、母性内科医、薬剤師、臨床心理士らと妊娠期がん

診療が抱える問題点について協議し、以下の3点について整備することが主な課題であるとした。

①診療基盤の確立

全がん種の妊娠期がんに対応できる診療体制の確立および知識の共有が必要である。妊娠期がん診療はがん診療科と産婦人科が併設されている総合病院が主体的に行っている。がん専門病院は産科のバックアップがなければ現段階で診療することは難しい。

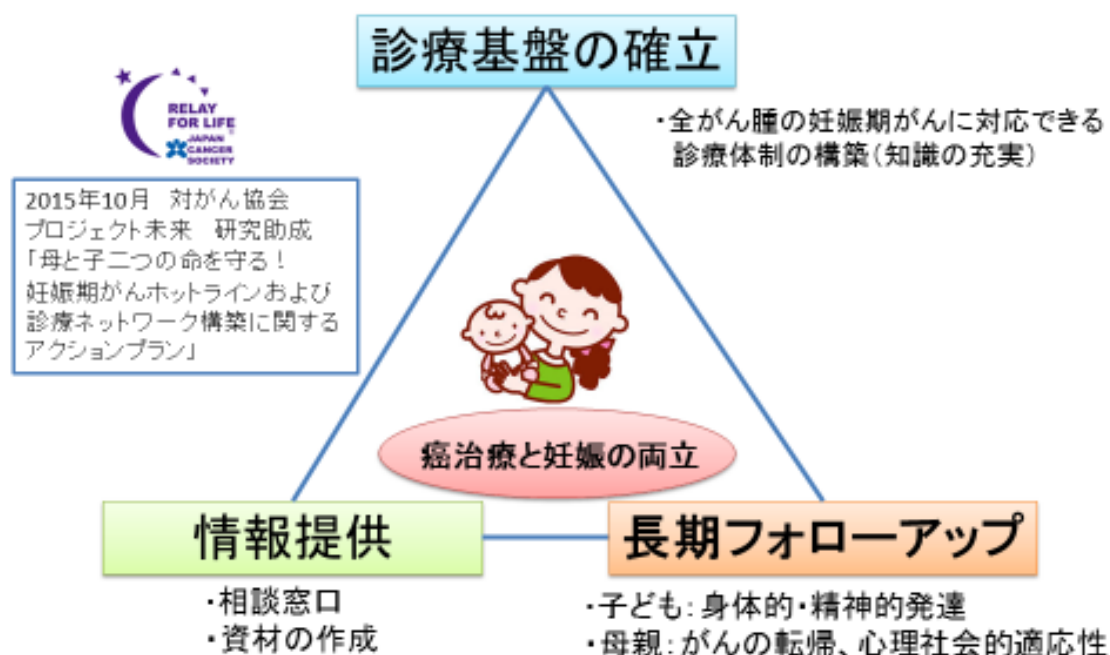
②情報提供の確立

将来的には相談窓口（ホットライン）や医療者向け、患者向けの資料作成が必要。

③長期フォローアップ体制の確立

在胎期に抗がん剤に曝露した児のフォローアップ体制が必要である。

妊娠期がん診療の基盤構築



上記3つの課題の中で、①を最優先課題とした。

3-2. 妊娠期がん診療ガイドブックの作成

妊娠期癌診療の均てん化のためには、妊娠期癌診療の概説書が必要と考えた。そこで、本研究に賛同を得られた医師、薬剤師、臨床心理士らとともに「妊娠がん診療ガイドブッ

ク」という教科書を現在作成中である。2017 年秋に南山堂より出版予定である。

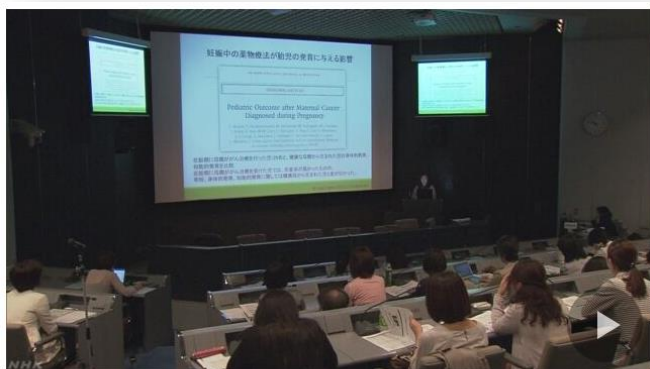
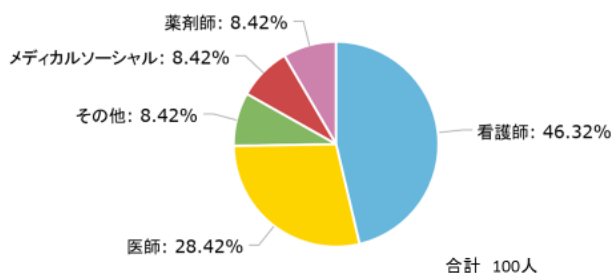
3-3. 妊娠期がんシンポジウムの開催

妊娠期がんに関する知識の共有、認知の拡大を目的として 2017 年 5 月 27 日に「第 1 回 妊娠期がん研究会」を開催した。

本シンポジウムでは国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院、成育医療研究センターらにご登壇いただき妊娠期血液がん、妊娠期子宮頸がん、妊娠期乳がん、妊娠期肉腫に関する症例検討を行うと同時に、妊娠期がん診療に関する最新情報に関し解説を行った。

当日は約 130 名が参加した。その内訳は看護師が 46%と最多で、次いで医師が 28%であった。

第1回妊娠期がん研究会シンポジウム
事前申込者の内訳 (5/24時点)



妊娠中のがん 治療の課題シンポジウム

入場無料 第2回妊娠期がん研究会シンポジウム

症例から学ぶ妊娠期がん診療

～みんなで守ろう2つの命～

日時 2017年5月27日(土) 10:30～16:30

会場 国立がん研究センター築地キャンパス内 国際交流会館
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

近年、妊娠中のがん治療に関する腫瘍学的および胎児学的安全性に関するデータが蓄積され、妊娠中が治療を実施することが可能になってきました。本研究会では妊娠期がん研究のトピックスおよび症例検討を通してがん種別の妊娠期がんの治療マネージメントを学びます。

お申込み方法

パソコンからのお申込みの方
<https://www.formz.net/ngen/521013485/>

スマホからのお申込みの方
<https://www.formz.net/ngen/521013485/>

お問い合わせ
MAIL: cancerpregnancy@gmail.com

会場地図

・最寄地下鉄: 大江戸線 国際交流会館A出入口から徒歩1分
・東京メトロ 有楽町線 築地駅C3出入口から徒歩5分
・東京メトロ 有楽町線 新築地駅C1出入口から徒歩5分
・東京メトロ 有楽町線 新築地駅C2出入口から徒歩10分

※ご来場の際は、新築地大江戸線A3出入口よりお入りください。
病院敷地から国際交流会館への通り抜けはできませんのでご注意ください。

主催: 2015年日本乳がん学会、NPO法人「プロゲノクス」主催の学術会議
協賛: 日本乳がん学会、日本産科婦科学会

4. まとめ

本研究では今後の妊娠期癌診療体制構築に向けたネットワーク作りを目指し、国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院、成育医療研究センターらと協働して課題の抽出を行った。複数ある課題の中から、目の前の妊娠期がん患者に対し、適切な妊娠期がん診療が実施できる体制づくり（診療基盤の確立）を最優先課題とした。

現在は、協力施設の医師、薬剤師、臨床心理士らと協働し「妊娠がん診療ガイドブック」を作成中である。

2017年5月に開催したシンポジウムは多くの参加者が集まり、妊娠期がん診療に対する関心が集まっていることを実感できた。今後も同様のシンポジウムを定期的で開催し、引き続き妊娠期がんの認知の拡大と、診療体制の充実を目指していく

5. 最後に

妊娠期がんは今まであまり関心が集まらず、診療体制や情報提供に関しては十分に行われてきませんでした。しかし、本助成をきっかけに、医療者だけでなく、広く社会から注目されるようになってきました。本助成を授与してくださった対がん協会に深く感謝いたします。また、今後も継続してこの領域の開拓に努めていきたいと思っております。